

2025 年度 第 2 回土木学会 原子力土木委員会
議事録

1. 日時：2025 年 12 月 26 日（金）14:00-16:30
2. 土木学会 A+B 会議室+Teams ミーティング
3. 出席者（委員および委員兼幹事）：大鳥，天野，糸井，井下，岩森，上野，大熊，
尾崎，金戸，河井，斉藤，酒井（俊），酒井（久），清水，高田，
高橋（一），佃，土，中村（晋），原口，三島，森，米山，渡辺，
佐藤（清），冨尾
（顧問）池谷，蛭沢，丸山
出席者（幹事）：中島，両角，和仁，稲垣，澤田，松尾，鶴留
出席者（常時参加者）：松村，木原
出席者（オブザーバー）：甲斐田

配 付 資 料

資料番号	資 料
資料 25-2-01	委員名簿（令和 7 年度 [12 月時点]）
資料 25-2-02	2025 年度第 1 回原子力土木委員会議事録案
資料 25-2-03-1	技術文書審議タスク（津波漂流物）原案
資料 25-2-03-2	技術文書審議タスク（津波漂流物）最終審議議事録
資料 25-2-03-3	技術文書審議タスク（津波漂流物）最終審議結果
資料 25-2-03-4	技術文書審議タスク（津波漂流物）原子力土木委員会の総合評価結果
資料 25-2-04	津波小委員会 活動報告
資料 25-2-05	原子力防災小委員会 活動報告
資料 25-2-06	令和 7 年度土木学会全国大会における研究討論会
資料 25-2-07	原子力土木委員会主催のセミナー案
資料 25-2-08	地震工学委員会との合同小委員会活動報告
資料 25-2-09	議事録・公開講演会報告作成方法の変更提案
資料 25-2-10	年間スケジュール

4. 議題
- 14:00-16:30 委員会（主な説明者）
- 0) 開会挨拶（大鳥委員長）
- 1) 前回委員会（7/28 開催）議事録の確認（中島幹事長）
- 2) 技術文書審議タスクの活動状況（大鳥委員長・糸井副委員長）
- 3) 技術文書審議タスク（津波漂流物）最終審議結果（大鳥委員長・澤田幹事・松尾幹事）
- 4) 小委員会活動報告（津波／リスコミ／原子力防災）
- 5) 全国大会研究討論会（2025 年度報告，2026 年度計画）（佐藤幹事）
- 6) 原子力土木委員会主催のセミナー案（天野副委員長・中島幹事長）
- 7) 地震工学委員会との合同小委員会活動報告（中村先生）
- 8) 議事録・公開講演会報告作成方法の変更提案（鶴留幹事・中島幹事長）

9) 年間スケジュール表（鶴留幹事）

10) 閉会挨拶（天野副委員長・糸井副委員長）

5. 議事録

0) 開会挨拶

大島新委員長より開会のあいさつとして、原子力を取り巻く環境の変化を踏まえ、引き続き信頼の積み重ねと技術継承の重要性が強調された。

1) 前回委員会（7/28 開催）議事録の確認

中島幹事長より資料 25-2-02 に基づき、前回（2025 年度 第 1 回 原子力土木委員会）の議事録を紹介し、内容について承認された。

2) 技術文書審議タスクの活動状況

大島委員長の方から、現行の審議運用の改善に向けて糸井副委員長を中心に検討が進められていること。米国 USNRC や ANS の事例も参考にしつつ、委員会内での技術文書審議の仕組みやフローの見直しが議論されていること。特に、審議の効率化や透明性向上を目指し、運用方法の改善案が複数提案された。また、委員会アンケートや投票制度についても、無効票の扱いや投票方法の見直しが今後の検討課題として挙げられた。

3) 技術文書審議タスク（津波漂流物）最終審議結果

澤田幹事より資料 25-2-03-1,2,3,4 に基づき、津波漂流物の技術文書審議タスクの最終審議結果が報告された。津波漂流物に関する技術文書については、「軽微な修正はあるが妥当」と評価され、委員会アンケートでも 2/3 以上の賛成を得て承認された。今後は、承認された技術文書の公開や、関連する技術資料の体系化・整備が進められる予定であり、審議過程で得られた課題や意見を次回以降の審議にも反映していく方針である。

4) 小委員会活動報告（津波／リスクミ／原子力防災）

各小委員会の方から、資料 25-2-04,05 に基づきそれぞれの活動報告が行われた。

•5.1 津波評価小委員会

機械学習（ガウス過程回帰・ディープラーニング）を津波評価に適用し、計算効率化や不確実性評価の高度化を推進。地滑り津波の実験・再現計算、確率論的評価手法の高度化に取り組み、南海トラフ沿いでの試評価が進行中。津波漂流物影響評価技術の体系化ワーキンググループの技術資料に対する技術文書審議タスクが開催され、概ね妥当と評価されたことを報告。

主な質疑として、ガウス過程回帰における不確実さの PTHA への反映の仕方、地すべり津波の確率論ハザード評価における地すべり発生の評価において PGA を用いるのか PGV を用いるのかといった議論があった。

•5.2 複合災害下の原子力防災・避難課題小委員会

3.11 以降の複合災害時の避難課題と対応策を整理し、技術資料としてまとめる活動を実施。実際の災害現場の声や関係者の経験も積極的に取り入れ、公開ワークショップやシンポジウムで意見交換を予定。本小委員会の活動は重要な課題であり前向きに進めることが確認された一方、学会としての役割は、国の方針の是非を判断することではなく、学術的観点から論点や考え方を整理することにあるとの認識が共有された。

•5.3 リスクコミュニケーション小委員会

これまでの調査・研究を踏まえ、今後は実践フェーズへの移行を検討。体制見直しや新たなメンバーの参画も視野に入れ、より実践的な活動を目指す。

5) 全国大会研究討論会（2025 年度報告、2026 年度計画）

佐藤幹事より、資料 25-2-06 に基づき、土木学会全国大会研究討論会の報告があった。2025 年 9 月に「数値解析における不確実さと原子力施設の安全性評価における課題」をテーマにオンライン討論会を開催。各分野の現状や課題、妥当性確認のあり方について議論し、参加者は約 100 名で好評だった。また、来年度の研究討論会のテーマについての募集についても行われた。

6) 原子力土木委員会主催のセミナー案

天野副委員長より、資料 25-2-07 に基づき、原子力土木委員会主催のセミナー案について提案があった。若手向け技術継承セミナーと上級者向け審査対応セミナーの 2 カテゴリーで検討。津波評価や構造分野など、実務に即した内容を想定し、参加費や運営方法も議論。他分野や若手技術者の参加促進も重視。

7) 地震工学委員会との合同小委員会活動報告

中村委員より、資料 25-2-08 に基づき、地震工学委員会との合同小委員会の活動報告があった。地盤の過剰間隙水圧上昇と変形評価に関するガイドライン作成を進行中。設計評価編・現象理解編の 2 部構成で、2026 年春のガイドライン発刊を目指す。

8) 議事録・公開講演会報告作成方法の変更提案

鶴留幹事より、資料 25-2-09 に基づき、委員会議事録及び公開講演会報告書作成方法の変更提案が行われた。幹事の負担軽減のため、AI 要約の活用や議事録の簡素

化（決定事項・アクション中心）を提案。公開情報としての表現やセキュリティ、透明性にも配慮しつつ、効率化を進める方針。

9) 年間スケジュール表

鶴留幹事より、資料 25-2-10 に基づき、今後のスケジュールについて説明した。

10) 閉会挨拶

天野副委員長，糸井副委員長より閉会の挨拶として，原子力を取り巻く環境変化や地震・津波リスクへの対応，次世代への技術継承の重要性が再度強調され，活発な議論と今後の活動への期待が述べられた。

以 上